

ORIGINAL

⑬日本国特許庁(JP)

⑭特許出願公開

⑯公開特許公報(A)

昭54-71673

⑰Int. Cl.²
G 06 M 7/06

識別記号 ⑱日本分類
111 A 51

庁内整理番号 ⑲公開 昭和54年(1979)6月8日
6260-2F

発明の数 1
審査請求 未請求

(全 9 頁)

⑳紙葉類識別計数機

㉑発明者 堂野修吾

姫路市下手野35番地 グローリ
ー工業株式会社内

㉒特 願 昭52-138682

㉓出 願 昭52(1977)11月18日

㉔発明者 畑中祺弘

姫路市下手野35番地 グローリ
ー工業株式会社内

㉕出 願 人 グローリー工業株式会社

姫路市下手野35番地

㉖代 理 人 弁理士 猪股清 外2名

明 細 書

発明の名称 紙葉類識別計数機

特許請求の範囲

1. 第1の紙葉類収納部に収納されている紙葉類を順次1枚ずつ送出して第2の紙葉類収納部へ搬送すると共に、これら搬送紙葉類の枚数を計数するものにおいて、
 - a. 前記搬送紙葉類の種類を識別検知するための検知装置と、
 - b. この検知装置の検知信号により当該紙葉類の種類を識別するための識別装置と、
 - c. 計数すべき紙葉類の種類を指示入力するための種類指定装置と、
 - d. この種類指定装置によって指示入力された指定種類と前記識別装置で識別された識別種類とを照合し、照合信号を出力する種類照合装置と、
 - e. この種類照合装置から出力される照合信号に基づき紙葉類の搬送動作を制御する搬送制御装置と。

御装置と、

を具備したことを特徴とする紙葉類識別計数機。

2. 第1の紙葉類収納部に収納されている紙葉類を順次1枚ずつ送出して第2の紙葉類収納部へ搬送すると共に、これら搬送紙葉類の枚数を計数するものにおいて、
 - a. 前記搬送紙葉類の種類を識別検知するための検知装置と、
 - b. この検知装置の検知信号により当該紙葉類の種類を識別するための識別装置と、
 - c. 計数開始により送出予定される第1番目の紙葉類の前記識別装置により識別された種類を記憶する種類記憶装置と、
 - d. この種類記憶装置に記憶されている記憶種類と前記識別装置で識別された識別種類とを照合し、照合信号を出力する種類照合装置と、
 - e. この種類照合装置から出力される照合信号に基づき紙葉類の搬送動作を制御する搬送制御装置と。
- を具備したことを特徴とする紙葉類識別計数機。

発明の詳細な説明

この発明は、紙幣、カード等の紙葉類を一枚ずつ取出して計数等の所定の処理をなさしめる紙葉類処理機において、その紙葉類を識別して確実に計数なさしめるようにした紙葉類識別計数機に関する。

この種の機械においては、多数枚堆積された紙葉類群から取出機構により一枚ずつ取出して搬送し、その間に紙葉類の種類を識別すると共にその紙葉類の枚数やトータル金額の計数を行ない、所定枚数取出し後自動的に送出を停止させる機能を備える必要がある。しかし、従来はオペレータが計数する紙葉類の種類を確認しており、誤って他の種類の紙葉類が混入していても、そのまま計数して枚数や金額を表示するようになっている。よって、この発明の目的は、計数すべき紙葉類の種類を指定することにより、計数中に紙葉類の種類を自動的に識別し、異種類のものがあれば直ちに計数動作を停止又は排除させ得る紙葉類の識別計数機を提供することにある。また、この発明の

他部分7aが上部走行ベルトの最面に接したときこのベルトの外表面が前記搬送台2の上面よりやや上方に突出し、同定小半径部分7bが接したとき前記ベルトの外表面が搬送台2の上面よりも下位に下るよう形成されていて、搬送ベルト3、3の上下動により搬送台2上の紙葉類P群の最下位のものから一枚ずつ間歇的に送出するようになっている。

前記搬送ベルト3、3の中間部上面には、このベルトとは反対方向に周面が回転される逆転ローラ8が、軸9に固定のアーム10の先端に支持された軸11により搬送ベルト3、3の上面との間に少くとも紙幣1枚が通れる間隔を置いて配設され、この逆転ローラ8と対応するベルト3、3の内面側にこのベルト3、3の位置を規制する案内ブリーチ12が配設されている。

前記逆転ローラ8の紙幣送入側には、上方部が計数機本体1側の部材12に軸13により枢支された押え部材14が揺動可能に設けられ、その下端部14aにはベルト3、3および逆転ローラ8の周面

への目的は、計数開始により自動的に第1番目に搬送される紙葉類の種類を識別すると共に記憶し、順次送られて来る紙葉類の種類と照合して異種類のものが検知されれば直ちに計数動作を停止させ得る紙葉類の識別計数機を提供することにある。

以下にこの発明を図面に示す実施例により説明する。

図示の実施例は、この発明を紙幣計数機に適用した場合の一例を示すもので、第1図において、計数機本体1の上部側に紙幣搬送台2が設けられ、この搬送台2の各側方には紙幣送出手段として搬送ベルト3、3が設けられている。

上記搬送ベルト3、3は、第2図に示すようにそれぞれブリーチ4、5間に巻回されており、このベルト3、3の外表面には紙幣Pとの摩擦力を増すため凹凸が形成されている。前記一方のブリーチ5にはモータMからベルト6により矢印方向への駆動が与えられるようになっており、また前記搬送台2の内端部に対応する位置には偏心ブリーチ7が設けられ、この偏心ブリーチ7の最大半

を避ける位置に杆13、13が垂設され、前記逆転ローラ8側に向け所定角度屈曲され、この杆部13、13の間隙でそれぞれ逆転ローラ8および搬送ベルト3、3を跨ぐようになっており、常時はばね16により下端部14aが逆転ローラ8とは反対方向に偏倚されている。

前記搬送ベルト3、3の駆動側のブリーチ4/7には大径のローラ18が取り付けられ、このローラ18の下半部には円弧状のガイド板19がローラ18の周面との間に少許の間隔を置いて配設されている。このガイド板19の下端には紙幣Pの先端をガイドするシュート20が導設され、このシュート20の下端は水平方向に設けられた搬出ベルト21の上面に臨ませてある。この搬出ベルト21の末端は計数機本体1の取出口22に臨み、この取出口22に設けられた紙幣堆積台22上に紙幣Pを放出するように構成されている。この堆積台22の上方には、基準が計数機本体1側に固定されたばね性を有する押え板24が設けられ、堆積台22上に放出された紙Pが飛散しないようになされている。

前記搬送ベルト3, 3間には、その前部が前記搬置台2の内部近傍に延び、後部が後部側のブリー5の近傍に延びる押上げ板25が前記逆転ローラ8よりやや低方位において軸26により揺動自在に支持され、この押上げ板25の上面はその前部側25aが上昇したとき偏心ブリー7により押上げられた搬送ベルト3, 3の上面よりもやや高位に位置され、同下降時にはその軸26より前部側25aの上面が前記状態にあるベルト3, 3の上面よりもやや低位に位置されるようになっている。

前記軸26にはアーム27が固着され、このアーム27の先端と、軸26により支持されたアーム29の先端とがリンク30で連結され、前記軸26には前記押え部材14の背面に取付けられた突起31に係合して押え部材14の下部部14aを逆転ローラ8の前側に突出した位置(第2図示状態)と逆転ローラ8の前側周面より後退した位置、すなわち逆転ローラ8の周面の一部が押え部材14の幅14間より突出される位置とに変位させる作動レバー32が固着されている。前記軸26の端部にはレバー33が固着され、

このレバー33の先端にソレノイド34のブランジャ35が連結されていて、ソレノイド34が励磁されたとき押上げ板25の先端側25aが上昇動するとともに押え部材14を逆転ローラ8側に引き寄せるようになっている。

押圧機構は第3図に示すように、前記軸9に所定角所鋭角に屈曲された左右一对の支持アーム36, 36の屈曲部分が挿通支持され、この支持アーム36, 36の先端側には押圧ローラ37, 37…が軸47により支持され、支持アーム36, 36の他端側にはウエイト38が支持されている。前記押圧ローラ37, 37…は前記ウエイト38軸よりもレバー比あるいは算術自体により押圧ローラ37, 37…側の方が重く形成されており、このとき押圧ローラ37, 37…の中心と軸9の中心とを結ぶ線に對し、軸9とウエイト38の中心とを結ぶ線は所定の角度を有している。また前記支持アーム36の後部側上面には、前記逆転ローラ8の軸11を支持するアーム16に固定のストップ39が当接自在に配設され、押圧ローラ37と逆転ローラ8との位置関係が定められるようにな

っている。さらに前記押上げ板25の前部側25aの側部には、前記逆転ローラ8と同軸上のローラ部材40の周面に当接自在なころ42が取付けられており、押上げ板25の前部側25aが上昇せられたとき逆転ローラ8と共に引き上げられて、押上げ板25の上面と逆転ローラ8の周面との間隙を一定に保つようになっている。送出停止時に押上げ板25上に残存する紙幣Pを搬置台2方向に確実に運送されるようになされている。

図中43は前記大径のローラ18の周面に当接される計数ローラで、紙幣Pが両ローラ18, 43間を通過する際に上方に変位する計数ローラ43の動きをレバー44に取出して増幅し、そのレバー44によって計数スイッチ45を開閉して通過枚数をカウントするものであり、46は搬置台2に過剰に紙幣Pが供給された場合、あるいは送出途上で紙幣Pがジャミングした場合に動作される非常停止用スイッチである。

また、計数機1の前面パネルには計数処理した紙幣の金額、枚数を表示する表示装置101、全て

のデータをクリアするクリアキー102、計数紙幣の金額を指定するための金額指定キー103、計数紙幣の枚数を設定するための枚数設定装置(ディジススイッチ)104、計数する紙幣の種類(普通紙、準金紙、複合金紙)を選択する計数種類選択ボタン105、計数機の作動モード(計数モード、加算モード、パツチモード)を選択する作動モード選択ボタン106、検索するメインメモリのデータ表示を指示するトータルキー107、検索する1次メモリのデータ表示を指示するサブトータルキー108、全ての動作を停止させるためのストップボタン109、電源スイッチ110が設けられている。

しかし、上述の如き計数機は第3図に示す制御回路によって制御される。すなわち、第3図において、111は搬送される紙幣の金額を識別するための、搬送路に取付けられたパターン検知装置であり、第4図に示す如く投光器111A及び受光器111Bの光電装置と、その間に配設された長形状の近接光スリット111Cを有する走査スリット板111Dとで構成されている。また、112はパター

ン検知装置111からのパターン検知信号を入力して当該紙幣の金種を識別するための識別装置、

112は金種指定キー103で指定された金種データを記憶する金種記憶装置、113は識別装置112の識別金種と金種記憶装置113の記憶金種とを照合して照合信号を出力する金種照合装置である。さらに、121は紙幣の搬送を行なう搬送駆動部120を駆動制御するための搬送制御装置であり、搬送台2に搬送された紙幣を検知する第1収容紙幣検知装置122からの検知信号をスタート指令として搬送駆動部120を駆動し、搬送台2に収められた紙幣を順次1枚ずつ取出して紙幣堆積台22上に搬送すると共に、金種照合装置114からの照合信号RPを入力してそれが不一致を示すものであれば搬送駆動部120を停止する。また、ストップボタン109からストップ信号が入力された場合には、搬送駆動中であっても搬送駆動部120を停止させる。

一方、123は金種照合装置114からの照合信号RPを入力してそれが不一致を示すものであれば、

る。なお、第2収容紙幣検知装置124は紙幣堆積台22上に搬送された紙幣を検知するためのものである。

しかして、計数演算装置200は加算ゲート201、レジスタ202A~202Dで成る1次メモリ202、メインメモリ203、演算制御装置204で構成されており、金種記憶装置113からの金種信号と紙幣検知装置126からの紙幣検知信号とに基づいて金種別に枚数を計数すると共に、計数終了信号CPによりその回の計数結果をメインメモリ203に加算する。また、1次メモリ202及びメインメモリ203のデータと、これらを金額に変換したデータとを表示装置101で表示させるようにする。1次メモリ202は「万」、「五千」、「千」、「五百」の金種別のレジスタ202A~202Dで構成されており、金種別の計数枚数を記憶し、混合金種の計数時は金種指定キー103及びサブトータルキー108との併用、つまりファンクションキーの操作により演算制御装置204を介して表示装置101で表示される。また、メインメモリ203は1次メモリ

当該検出紙幣を紙幣堆積台22に搬送させないで排除させるための異金種紙幣排除装置、125は第1収容紙幣検知装置122で搬送台2に収められた紙幣が検知されており、かつ後述するタイマー回路125から計数紙幣無し信号NBが出力された時に搬送通路内での紙幣の陥り等の事故として事故検知信号TDを出力し、搬送制御装置121を介して搬送駆動部120を停止させるための事故検知装置、126は搬送駆動部120によって搬送される紙幣を光電装置等で検出する紙幣検知装置であり、タイマー回路125は紙幣検知装置126からの紙幣検知信号TBを入力して所定時間以上にかたつてこの検知信号TBが入力されなければ、搬送制御部120からの制御信号を入力して計数紙幣無し信号を出力する。

また、モード選択装置127は計数処理するモードを選択するものであり、搬送台2に収められた紙幣がなくなるまで計数し、計数終了検知装置128からの計数終了信号CPにより搬送制御装置121を介して搬送駆動部120を自動的に停止させ

202と同様に「万」、「五千」、「千」、「五百」の4金種のメモリ部を有すると共に、トータル金額をも記憶するようになっており、金種指定キー103及びトータルキー107の併用、つまりファンクションキーの操作によりその記憶データを表示装置101に表示する。さらに、演算制御装置204は、単金種計数及び普通紙計数の場合には加算ゲート201を経て1次メモリ202に金種別に計数記憶してそのデータを逐次金額に変換し、枚数データと共に表示装置101へ転送して表示する。そして、混合金種計数の場合には1次メモリ202に計数記憶されている金種の各データを金種指定キー103及びサブトータルキー108の操作により金額データに変換し、枚数データと共に表示装置101へ転送して表示する。また、演算制御装置204はサブトータルキー108の指示により1次メモリ202のデータをメインメモリ203の当該金種部に加算し、メインメモリ203に金種別に記憶されているデータをトータルキー107及び金種指定キー103の指示により金額データに変換し、枚数デー

と共に表示装置101に転送して表示する。しかし、パチモードの場合、枚数設定装置104の操作に基づき当該金種の1次メモリ302内のデータを常時チェックし、計数一致時に一致信号CMを出力する。

なお、トータルキー107はメインメモリ303のデータ表示を指示する場合に、金種指定キー103に先立って操作することによりメインメモリ表示命令を演算制御装置204に与え、サブトータルキー108は1次メモリ302のデータ表示を指示しかつ1次メモリ302のデータをメインメモリ303へ加算指示する場合に、金種指定キー103に先立って操作することにより当該演算命令を演算制御装置204に与える。また、表示装置101は枚数表示部101Aと金額表示部101Bとに分かれており、単金種（又は普通紙）の場合には当該金種の計数中、常時その計数枚数を表示し、混合金種又はトータル計出時の場合には所定の操作に基づき当該金種データを表示するようになっている。さらに、モード選択装置127は計数種類選択ボタン105及び

作動モード選択ボタン106からの各信号を入力して計数処理を行なうモード信号MBを出力するもので、パチモードが選択された時、並びに「計数」、「加算」モードでの「普通紙」選択時には識別装置112、金種指定キー103、金種記憶装置113を不作動とし、搬送紙検知装置126から出力される紙幣検知信号を「万」の金種別レジスタ302Aにて枚数を計数させる。

一方、作動モード選択ボタン106は計数するモードを選択するものであり、

1) 数値台2に載せられた紙幣が無くなるまで計数し、計数終了検知装置128からの計数終了信号CPにより自動的に搬送駆動部120を停止させ、「普通紙」計数の時は枚数のみを、「単金種」及び「複合金種」の時には枚数及び金額表示を行なわせる計数モードと、

2) 数値台2に載せられた紙幣を順次計数して、計数中は金種別のレジスタ302A～302Dの内容を表示し、計数終了信号CPが出力された時にはレジスタ302A～302Dの内容を金種別に

合計して表示し、「普通紙」計数の場合は枚数表示を、「単金種」及び「複合金種」の場合は枚数、金額を表示させる加算モードと、

3) 枚数設定装置104で設定された枚数に一致すれば数値台2にて収容紙幣検知装置129が紙幣を検知してゐれば、計数終了検知装置128にて一致信号CMを入力して数値台2にて収容されている紙幣を取出せば再び搬送駆動部120が動作し、所定枚数未満で計数紙幣無し信号NBが出力されて搬送駆動部120が停止すれば、再び数値台2に紙幣を追加補充すると搬送駆動部120が再び動作し、所定枚数を計数し、その枚数を表示するパチモードと、

を含んでいる。

このような構成において、今、単金種の紙幣を加算モードで計数する場合を例に挙げて説明する。

まず、計数種類選択ボタン105の「単金種」と、作動モード選択ボタン106の「加算モード」とを選択する。そして、金種指定キー103の指定ボタンにより計数すべき紙幣の金種を指定すると、金

種指定キー103から指定金種信号が出力される。ここでは「万」の金種を指定したとする。

そして、次に計数すべき紙幣束を数値台2に載せると収容紙幣検知手段122にて紙幣が検知され、この検知信号がスタート指令として搬送制御装置121に入力される。かくして、搬送制御装置121は搬送駆動部120を駆動させるための制御信号を出力し、数値台2に載せられた紙幣束は順次1枚ずつベルト3により送出されて搬送される。

ところで、パターン検知装置111は搬送紙幣検知装置126と数値台2との間に設けられているため、まず、パターン検知装置111にて、搬送される紙幣のパターンが検知され、パターン検知信号が出力されてこれを入力する識別装置112は「万」の金種を示す識別信号を出力する。そして、金種照合装置114はこの識別信号と金種指定キー103からの金種信号とを入力し照合し、「一致」又は「不一致」の照合信号RPを出力する。そして、「不一致」であれば搬送制御装置121は搬送駆動部120を停止させる。なお、搬送駆動部120を停

止させずに金種排除装置123を作動させて、金種の紙幣を堆積台2に搬送させずに排除させるようにしても良い。

そして、搬送されている紙幣はパターン検知装置111が設けられている位置から、搬送紙幣検知装置126が設けられている位置に搬送されると、この搬送紙幣検知装置126は紙幣の通過によりパルスの搬送紙幣検知信号TNを出力する。この搬送紙幣検知信号TNは計数演算装置300の加算ゲート301に入力され、「一致」の照合信号RPを入力条件として金種記憶装置113から出力された金種信号に対応する「万」のレジスタ302Aに入力され計数される。そして、表示装置101の枚数表示部101Aにて計数した枚数を表示する。

また、「万」のレジスタ302Aの内容を演算制御装置204にて金額に変換し、これを表示装置101の金額表示部101Bに表示する。かくして、順次1枚ずつ送出搬送される紙幣は1枚ずつ識別されると共に計数処理される。そして、数値台2に搬置された紙幣が無くなれば、収容紙幣検知装

して、動作しないようになっている。よって、加算ゲート301は金種信号に応じて搬送紙幣検知装置126からの搬送紙幣検知信号TNを金種別に1次メモリ302のレジスタ302A～302Dに入力して、計数する。そして、表示装置101の枚数表示部101A並びに金額表示部101Bにて金種別に枚数及び金額を表示する。なお、この表示装置は1つの表示手段だけを科けて別途金種別表示キーのキー操作により金種別に順次表示させてもよく、金種別のレジスタに対応して表示手段を設けても良い。

金額表示についても、同様である。

次に、「加算モード」を選択した場合には数値台2に収せられた複数金種混合の紙幣が無くなり、計数終了検知装置128にて計数終了信号CPが出力されると、計数演算制御装置204は金種別に設けられたレジスタ302A～302Dの内容を加算し、メインメモリ303内のトータル計数回路の内容を、つまり枚数及び金額を表示装置101にて表示する。そして、次に再び数値台2に紙幣束が収せられる

際123は紙幣を検知せずその検知信号を出力しない。また、搬送紙幣検知装置126も紙幣を検知しなくなるため、タイマー回路125は搬送紙幣検知信号TNが出力されなくなってから所定時間以上経過すれば計数紙幣無し信号を出力し、計数終了検知装置128は計数終了信号CPを出力して1次メモリ303のデータをメインメモリ303に搬送して搬送駆動部120を停止させる。そして、数値台2に再び紙幣を搬置すれば上述と同様の計数処理動作を繰返すことになる。

次に、計数種類選択ボタン105の「複合金種」、及び作動モード選択ボタン106の「計数モード」を選択した場合について述べると、

数値台2に複数金種混合の紙幣束が収せられると搬送駆動部120が作動し、紙幣が順次1枚ずつ送出搬送され、パターン検知装置111は搬送される紙幣の金種を判別するためのパターン検知信号を出力する。そして、識別装置112は金種を示す識別信号を出力するが、この時金種照合装置114はモード選択装置127よりモード信号MBを入力

と自動的に搬送駆動部120が動作を開始し、加算ゲート301を経てレジスタ302A～302Dにて計数し、表示装置101にて表示し、計数終了すれば再び金種別にトータル枚数及び金額を表示する。なお、「複合金種」を選択した時、金種指定キー103にて計数すべき複数の金種を指定しておき、識別装置112からの識別信号を金種照合装置114にて照合して、指定された金種以外の紙幣であれば排除部にて排除し、指定された金種のみの紙幣を堆積部2に搬送させて金種別に計数させても良い。

また、「普通紙」又は「パツチモード」の選択時には金種の識別は行なわれず、金種指定キー103もロックされる。

なお、上述の実施例では金種指定キー103の指定金種を金種記憶装置113が記憶し、この記憶金種を金種照合装置114で照合するようにしているが、識別装置112で最初に識別された金種を金種記憶装置113に記憶させ、これを金種照合装置114に入力させるようにしても良い。また、上述

では紙幣の計数の 合について実施例を挙げ説明したが、他の紙幣類についても同様に適用し得る。

201…加算ゲート、202…1次メモリ、203…メインメモリ、204…演算制御装置。

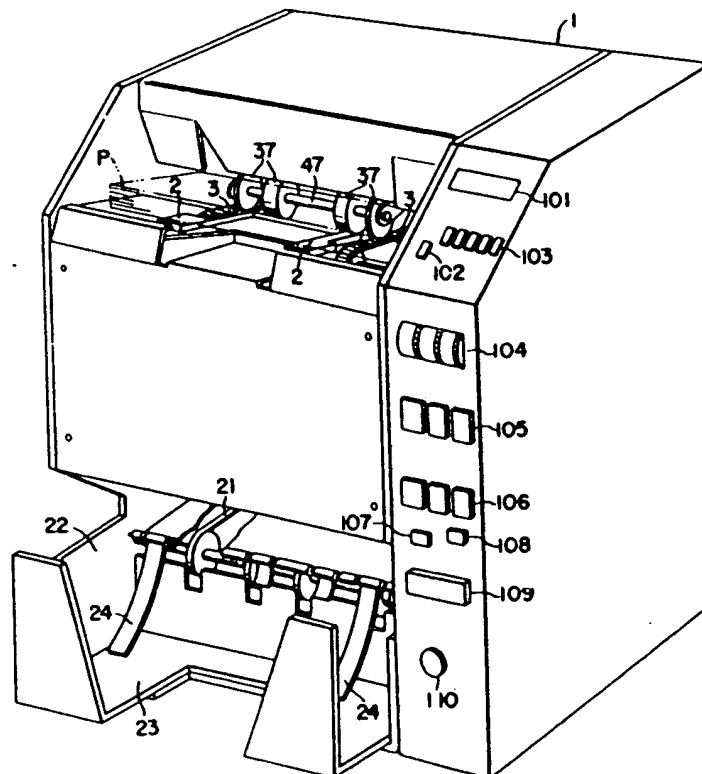
図面の簡単な説明

第1図はこの発明による紙幣計数機の外観図、第2図はその内部機構を示す図、第3図はその制御回路のブロック図、第4図はパターン検知装置の機構を示す図である。

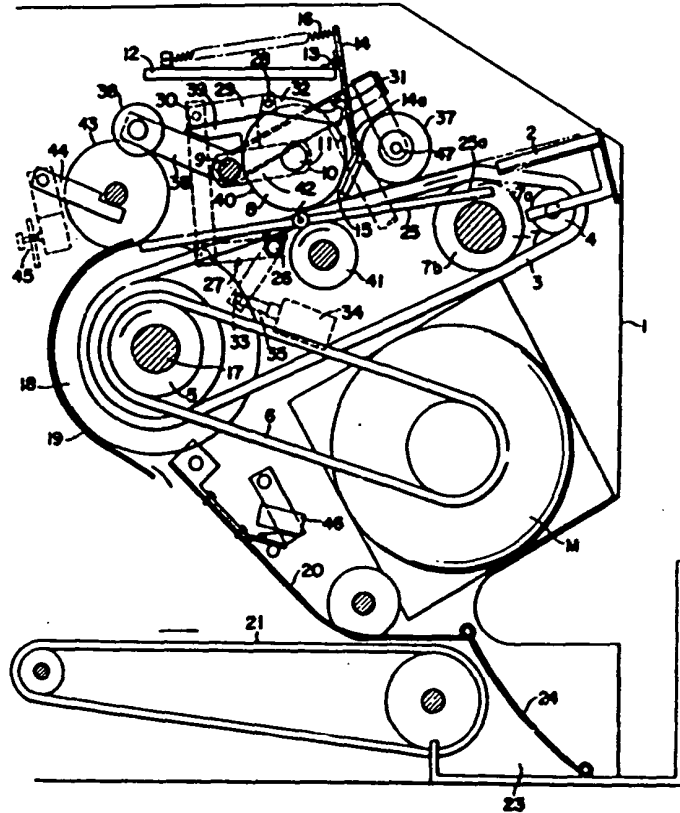
出願人代理人 病 股 清

101…表示装置、102…クリアーキー、103…金種指定キー、104…枚数設定装置、105…計数種類選択ボタン、106…作動モード選択ボタン、107…トータルキー、108…サブトータルキー、109…ストップボタン、110…電源スイッチ、111…パターン検知装置、112…識別装置、113…金種記憶装置、114…金種照合装置、120…搬送駆動部、121…搬送制御装置、122、123…収容紙幣検知装置、124…異金種紙幣排除装置、125…吊故検知装置、126…タイマー回路、127…異送紙幣検知装置、128…モード選択装置、200…計数演算装置。

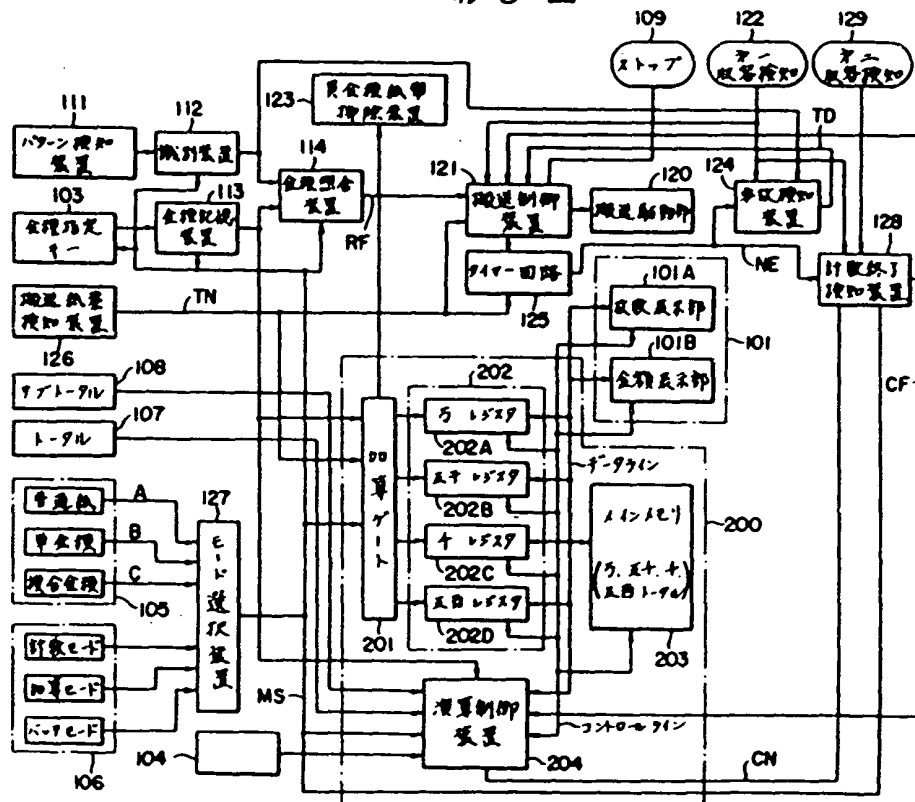
第1図



第2図



第3図



第 4 図

